

もっと「同友会大田支部」を知ろう！参加しよう！

O T A • N O • D O Y U

おおたの同友

一般社団法人 東京中小企業家同友会 大田支部 © 広報誌リニューアル21号

広報委員会

おおたの同友 リニューアル21号 (2021年1月発行)
広報委員会: 島村亮 (株)ルミナス
小川琢弘 (株)think shift
平林正樹 (順天堂大学国際教養学部)
郷家由佳 (アクアカンパニー)
広報委員長: 針谷周作 (コトノハ株)
発行: 一般社団法人 東京中小企業家同友会大田支部
編集制作: コトノハ株式会社
入会のご希望は、東京中小企業家同友会大田支部
→ ☎03-3261-7201

お知らせ | NEWS HEADLINE

賀詞交歓会のご案内

～2021年の恵方を風水に学び運気をアップさせましょう～

ぜひ
ご参加
下さい!



今年の賀詞交歓会は、山田光復先生を講師に迎え開催します。自然の生命エネルギーと最も効果的に同化し順化するために実質的にどのような方法を取ればよいのか？ 私たちが知らず知らずに影響を受けている目に見えない自然の力をどのように活用すれば幸福を得る事が出来るのか!? 気の流れをコントロールし運気アップ! 講演の後はお食事とお酒をご用意致しております。運気上がった仲間たちと楽しい語らいを。



DATA

日時: 1月28日 18:30～

会場: 羽田バル 大田区西蒲田7-41-8

蒲田駅西口の大通りを直進、約300m直進の右手側です

リアル参加費: 5000円

(食事付。参加費は当日現地清算となります)

1/15以降のキャンセルはキャンセル料を賜ります

ZOOM参加費(講演視聴、要事前決済): 1000円

大田支部からのお知らせ (2021年1月)

NEWS

- ◎大田支部会員数は181名(期首175名)です。
- ◎例会登録システムが新しくなりました(IDとパスワードによるログインが必要となります)。https://tokyo-doyu.shikuminet.jp/events/public
- ◎「おおたの同友」について、例会システムのIDとパスワードの確認など、ご意見、ご感想がありましたら、事務局アイダまでご連絡ください。

経営者がおすすめする本

自分が源泉

～ビジネスリーダーの生き方が変わる～

鈴木博 著
出版社: 創元社

推薦者: 社会産業教育研究所
代表 岡野 亜希子

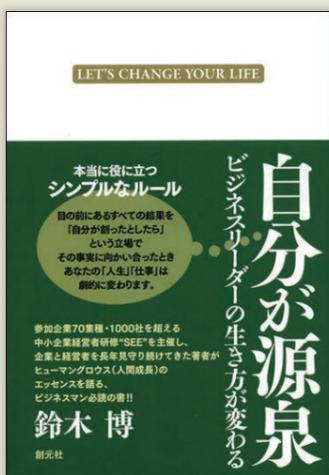
個人事業主になり、自分が人生のハンドルを握る、と決意した頃に出遭った一冊。

自分が源泉の在り方は「全ての結果は自分が創っているという立場をとること」「存在理由」「過去を手放す」など、その時心に響いた言葉をマークし、その理由を書き込みながら繰り返し読んでいます。何かをする時、できない理由を考えがちで後ろ向きだと思っていました。が、それは解決すべき課題で、突破口にもなると教えてくれたのもこの本。

本に引用されているマザーテレサの好きな言葉の英語は、同友会の先輩方からの、愚直に行動すること(とにかくやれ!)の言葉と繋がっています。

Give the best you have, and it will never be enough. Give your best anyway.

他責から自責への切り替え、未来の全ての結果は今の自分が創っている、と頑張って張ります!



2月13～14日 一泊同友会のご案内

知り合い、学びあい、高めあう一泊

ぜひ
ご参加
下さい!



昨年の一泊同友会に参加された会員達

一泊同友会では、大田支部会員の皆様と今期の総括と来期の方針、支部スローガンを創り上げます。同友会活動は、自社の経営をより良くするために行われるものです。皆さんの希望やアイデアをどんどん出していただき、それぞれの会社経営に大いに役立つような支部活動を実践していきましょう。

仲間が集まり日々の経営を語り「知り合い、学びあい、高めあい」、それぞれの企業の成長と会の発展に繋がる一泊となります。一泊ということで、より深く経営を語り合う夜としたいと思います。幹事以外の方や今まで参加したことのない方も、ぜひご参加ください。

DATA

開催日: 2月13日～14日 2月13日午前10時現地集合・開会、14日朝食後解散

会場: ニューエルシティ湯河原 静岡県熱海市泉107

電話: 0465-63-3721

交通: JR湯河原駅よりタクシー5分

参加費 通し参加: 20,000円 (宿泊、13日昼食、13日夕食、14日朝食)

13日・日帰参加: 10,000円 (13日昼・夕食付)

会議のみ参加: 3,000円 (13日昼食代込み)

※参加人数によって料金の変動が生じる場合があります。
※2月5日以降のキャンセルは全額キャンセル料がかかりますのでご注意ください。

時代を超え、企業規模を超え、 国境を超え、更に地方再生へ 当社の常識は一般企業の非常識

「これからの日本は中小企業の時代だ」

報告者：(株)日本コンピュータ開発

会長 高瀬拓士氏

レポート：赤澤大三郎氏(株)MSプラネット代表取締役



(株)日本コンピュータ開発の会長・高瀬拓士氏は、「自社を『非常識な会社』にしたと言われる。それは、自身の育ちに関係している。九州の17人兄弟姉妹の貧しい農家に生まれ、大学への進学を諦め、地元の工業高校に進学し卒業後、日立に入社。コンピュータ開発の部署に所属しますが、周りは旧帝大卒ばかり。そんな中、日立が作った社内学校で苦学を重ね専門の知識を習得され、更に新商品開発で、その技術を磨かれます。」

33歳の時ドルショックで倒産しそうになった京都の薄膜技術の会社へ出向し取締役となり経営を立て直します。その会社が海外進出することになり、英語も話せないなか一人米国へ渡り悪戦苦闘し会社設立から工場を作るまでやり遂げられます。その後、日立に呼び戻されて、現在の日本コンピュータ開発の経営を要請されますが、日立から株を買取り、全株式を社員が持つ現在の会社にした。

高瀬氏が「非常識を狙っている」のは、経営とは知識やテクニックではなく、経営者の人生観や価値観であり、それはつきつめると個性なので、同社は個性を際立たせようとしている。とにかく徹底して生え抜きの社員にやらせる。独自の経営理念をもった会社にする、経営理念は経営者の人生観と価値観でできる。この言葉は、聴講した同友会会員の心に強く響いたに違いない。

自分の人生を金儲けのためにいきるのはもったいない。貴重な一生をこの会社で過

ごせてよかったと思える会社にしたというのがこの会社のベースです。社員の人生をどうするか、これがこの会社の原点。同社の基本姿勢は社会と会社はギブアンドテイク。よい社会があるから自分の会社がある。社会の維持発展のために貢献しつつ会社をよくしていくことが重要。

どんな経営をめざすのか、2つ。1つは、生き残る経営はしない、いつ倒産してもよい経営。社会から必要ないから倒産するのだと言われる。そのためには、社会に役立つ仕事、儲からなくても役立つ仕事をするということ。

もう1つは売り上げを目指す会社ではない、社員育てをする経営。社員が育てば結果的に会社の売り上げも利益も上がる。会社が倒産しても社員が自立できればよい。そういう社員育てをしておられるとのこと。会社には規則を極力つくらず、採用するときに経営理念をしっかり伝え、共通の価値観と目標を共有する仲間組織しているとのこと。

最後に高瀬氏が言われた、「企業は、金儲け集団になってはいけない。会社は社会人教育機関であり会社は社会の公器なのだ。反省はするけど後悔はしない人生をおくりましょう。成果は後からついてくるものです。」との言葉に、同氏の深い人生観と価値観を感じました。同氏のいわれる「非常識」は、我々が見失っているが、真の「常識」であるべきなのかもしれない。

「元気な企業」訪問記③

金属加工の可能性を追求するオープンファクトリー

株式会社東新製作所・代表取締役

石原幸一さんに聞く「工場発の設計開発ソリューション」

レポート：平林正樹(順天堂大学国際教養学部 特任教授)

東新製作所は、1970(昭和45)年に創業した製缶板金・設計開発・金属3Dプリントを主力事業とする従業員20名のオープンファクトリー企業です。

石原社長が社業を引き継いだ10年くらい前までは主要なクライアントが2-3社に偏り、売り上げの約半分が1社に依存している典型的な受託製造の下請け企業でした。リーマンショックではご多分に漏れず大きな痛手を被り、年間売り上げが25%ほど落ち込んだそうです。そこで大きく社内の体制を変え、「加工のデジタル化」「生産管理のデジタル化」「経理のIT化」を図りました。「それが無かったら多分、生き残っていなかった」と石原さんは当時を述べます。

さらに石原さんは単純な受注生産だけに依存することなく、自社主導のプロジェクトによる製品・部品を自社工場の生産の半分にするを目標に、自らのビジネスの最大化に乗り出します。お客様の良きパートナーとしてのづくりを全面的にサポートするために、モノづくりの研究所である「東新Lab.」を組織します。また大田区の加工技術連携でモノづくりを達成する『おたグループネットワーク』と、多様な分野の設計者を集めた『東新設計グループ』によって、お客様の案件に応じて最適な設計者と加工技術をアサインし、設計開発から製造までモノづくりをトータルにサポートする体制を構築しました。ワーキングプロセスは、モノづくりの現場メンバーがクライアントの要望をお聞きして、提案・見積もりをするように変革をしました。これらの企業変革

を経て、石原さんはこう言います。「企業が筋肉質になるためには、環境適合性が必要だ」と。

こうした体制から生まれた設計開発事例には、汚染土を運搬することなくその場で処理・浄化した土を再び元の場所に戻すことができる「車載型除染装置」、タイヤを効率よく運ぶための装置開発・製品化である「タイヤダブリングマシン」、医療研究をカタチにしたリハビリ装置の「変形性膝関節症リハビリ装置」の開発などがあります。工場と設計者が密に連携し、試作によるトライアンドエラーを繰り返しながら開発の精度を高めていく得意技を極めることによって、東新製作所もそこで働く人々も益々成長しています。



タイヤダブリングマシン



変形性膝関節症リハビリ装置



車載型除染装置ランドセーバー

Report 例会レポート

柔軟な発想でビジネスの拡大を コロナ禍で研修講師が たどり着いた未来とは

報告者：岡野亜希子氏(社会産業教育研究所 代表)

レポート：稲田裕(株)稲田財務 代表取締役



この度、大田支部例会にて研修活動で活躍されている岡野先生の講義をzoomにて初めて受講することができました。さすが研修講師だけあって岡野さんの話し方のスピード、言葉の丁寧さなど小気味が良く2時間があっという間に過ぎました。

講義の中身を簡単に紹介しますと、岡野先生の自分史(自己紹介)から始まり、TA(transactional analysis)交流分析の説明、そして数種類のワークを通じて成功体験を身につけるという内容でした。

一般的な研修は理論提供→対策案、行動計画を考える→職場で実践というフローですが、岡野先生の研修は体験(ワーク)→ふりかえり→考える(TA)→対策・試す→成功体験(身についたスキル)というサイクルを廻すものでした。

ワークで自分や他人の体験を共有し気づきがあると、体で理論を覚えることができるようになります。これはオカノ・メソッドと呼んでいます。

タイトルにもありますが、対面が常識だったTA研修からオンラインでの伝達の可能性を模索し、実践、検証されている岡野先生の姿は、経営者の皆様もおおいに勇気づけられたのではないのでしょうか。私自身、自分のビジネスにもたくさんのアイデアをいただけたことに感謝しています。

岡野先生、最後までオンラインでの受講者への心配りを絶やさないう素晴らしい講義をありがとうございました。